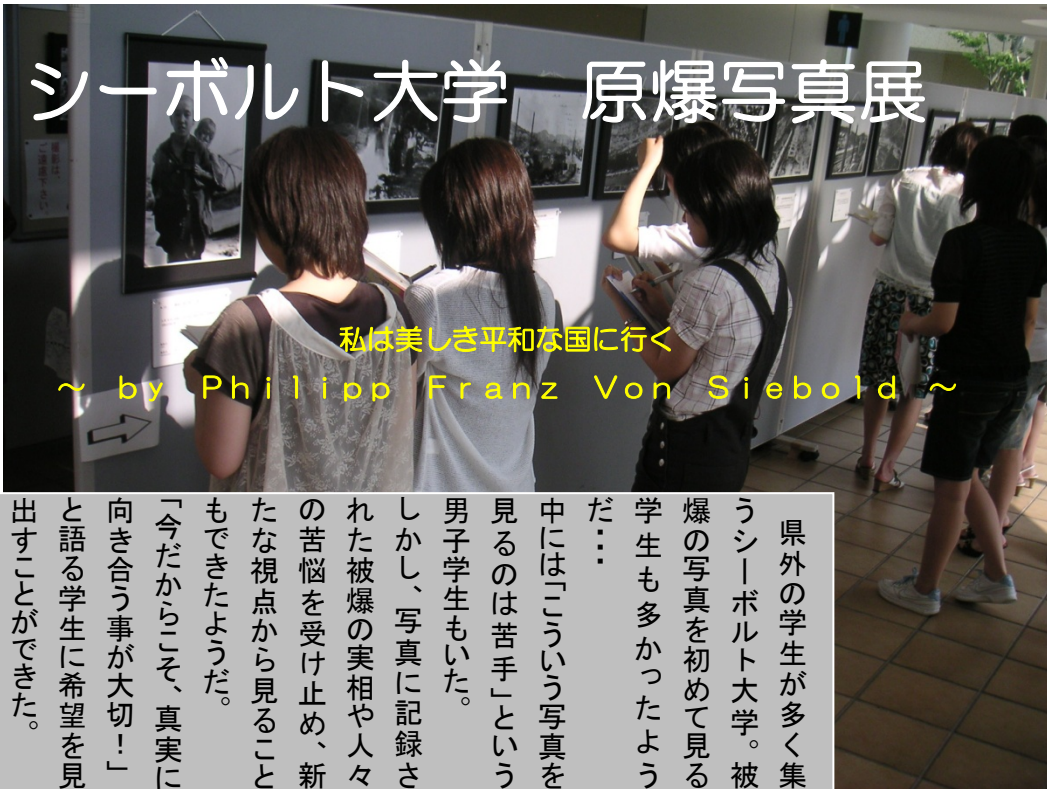


シーボルト大学 原爆写真展



Footprint
フットプリント

写真資料
調査部会発行

2007年
第1号

県外の学生が多く集うシーボルト大学。被爆の写真を初めて見る学生も多かったようだ…
中には「こういう写真を見るのは苦手」という男子学生もいた。しかし、写真に記録された被爆の実相や人々の苦悩を受け止め、新たな視点から見ることでもできたようだ。
「今だからこそ、真実に向き合う事が大切！」と語る学生に希望を見出すことができた。

シーボルト大原爆写真展
私は美しい平和な国に行く
~by Philipp Franz von Siebold~
6月5日(火)~7日(木)
県立長崎シーボルト大学にて開催

シーボルトは息を引き取る間際に「美しい平和な国に行く」そう預言して、70歳の生涯を終えました。その美しい平和な国とは日本です。しかしその後、美しい平和な国は戦争を許してしまいました。そして落とされた原子爆弾「美しい平和な国」
原爆の実相を通して改めてみませんか？

共催 ビスコミュニケーション(財)長崎平和推進協会写真資料調査部会
場所 県立長崎シーボルト大学本部棟2階ヒロティ
お問い合わせ 県立長崎シーボルト大学 ビスコミュニケーション
Mail: peace@sun-campus.com
URL: http://sun-campus.com/peace/



長崎にいないからこそ知らなければいけない…
県内外の学生に原爆の実相を紹介したいと、「私は美しい平和な国に行く」というシーボルトの言葉をサブタイトルに掲げ「ナガサキ原爆写真展」が県立シーボルト大学(西彼杵郡長与町)でさる六月五日(火)から三日間開催された。



写真展を終えて

今回は、シーボルト大学では二回目の写真展開催となりました。前回とは異なり、(財)長崎平和推進協会写真資料調査部会の皆様のご協力により、前回の倍以上の約八〇点の写真を展示することが出来、素晴らしい写真展を開催することが出来ました。見学者も学生のみならず、教職員・地域住民まで幅広い層の方がお見えになり、多くの人に被爆について考えていただけたと思います。今後も是非、続けていきたいと思えます。

【伊藤和吉】

写真調査部会では、今年度からの新しい試みとして、県内を中心に『ナガサキ原爆写真展』を開催していきたくと考えています。
平成十七年の被爆六十周年写真展に使用した、約二百点余りの貴重な写真が、現在収蔵庫に眠ったままであり、それらの有効活用が急務だと感じたからです。
手始めに呼びかけたシーボルト大学では、学生をはじめ教職員のご協力のもと写真展を開催、三日間で約百五十名の方々が来場されました。
「見る機会が少ない」会場が別の場所ならわざわざ見に行けなかったであろう「初めて見た」このような学生の声も聞かれました。
『戦争を知らない若い人にこそ見てもらいたい』思っているだけでなく、やはり積極的な行動が必要な時代かもしれません。

例年県外原爆展に参加して展示写真の解説をしています。開催には原爆資料館員、継承部会員、写真調査部会員の三名一組で担当しています。

十年程前から始まったこの県外原爆展は、長崎に来て資料館を見学する機会のない遠隔地域の人々に、こちらから出向いて被爆の惨状と核廃絶を訴えようという発想に基づくものようでした。開催に要する費用は決して馬鹿にはなりません。

果たして原爆展の成果は？の問いには答えようもありませんが、時代の変遷、主催する各自治体の協力体制、集客力、そして関係被爆者の高齢化などを考え合わせると、この辺で一度見直してみる価値がありはしないか、と密かに思う昨今の私です。

【深堀好敏】

失われた風景

滑石郷平宗仮救護所跡



2005年4月撮影当時

滑石一丁目にひっそりとした空地がある。二年前まで故宮島武氏の自宅があった。六二年前：被爆直後の混乱のさ中、同氏(当時五十六才、予備役海軍軍医中佐、外科)により負傷者の救護がいち早く始まった場所である。近くに住む山崎吉兵衛老人は六地藏付近で負傷、すぐに宮島氏宅へ駆けつけていることから、第一号患者は、原爆投下後十数分ということになる。

話題

シーボルト大学で開催された「原爆写真展」の最終日、一枚の写真に見入る女性二人の姿があった。話を聞いてみると、近くに住む母娘で、前日娘さんが来場の折、展示写真の中に戦時中暮らしていた町並みを発見、母親を誘ってもう一度見に来たという。

その一週間ほど前にも写真調査部会に一人の男性が訪れ「二年前に行われた写真展の写真をもう一度見たい。」との申し出があった。やはり昔の自宅が写っているという。戦禍は人の命だけでなく、想い出まで消してしまふ。しかし一枚の写真が失われた記憶を呼び起こし、懐かしい面影を見い出すこともある。そう感じた二つの出来事だった。

今月の一枚

長崎市長最初の平和宣言



被爆4周年目の1949年(昭和24年)8月9日、復興に向けての長崎国際文化都市建設法が公布された。爆心地公園において記念式典が挙行され、大橋長崎市長が初めて平和宣言を行った。撮影日：1949(昭和24)年8月9日

本のご紹介

元写真調査部会員の堺屋修一さん(八〇)が昭和三十年代の長崎の生活風景を撮影した写真集「長崎昭和レトロ写真館」を出版されました。



予告写真展のお知らせ

八月一日から三日まで、長与駅コミュニティホールにて『ナガサキ原爆写真展』を開催します

写真調査部会では、皆様のご意見・ご感想・ご質問などお待ちしております。

